

労務・会計の I T 化による 生産性向上の取組について

株式会社エムワン
人事部 柴田佐織

【会社概要】

株式会社エムワン

本社：三重県松阪市

事業内容：保険調剤、一般医薬品販売および在宅患者訪問サービス

店舗数：三重県 6店舗 大阪府 3店舗 北海道 デイサービス

従業員数：67名（男性8名 女性59名 内社員 43名）

平均年齢：35歳

【現状】

- ・社長、副社長、三重県に部長1名 その他店舗の管理職7名
- ・社長が預金・資金繰りは担当、副社長と部長は店舗運営のみ
- ・採用と経理、総務は柴田1名のみで担当
- ・給与計算は社労士事務所にアウトソーシング

① 会計システム導入による月次決算短縮化

➤ 課題

- ・ 税理士事務所と互換性がなくデータ連携出来ない➡手作業で打ち直しになり二度手間
- ・ 月次処理が4か月もかかっている➡銀行に試算表をタイムリーに渡せない
➡資金繰りが困難（社長の勘頼み？）
- ・ 税理士事務所から紙で試算表をもらっていた➡紙のムダ、紙を置くスペースのムダ
➡各店へデータ配信不可
- ・ 店舗には配布されてなかったため、管理者が自店の数字を把握してない➡対策が打てない
- ・ 通帳による手入力を行っていた（インターネットバンキングを有効活用出来ていない）

➤ 苦勞した点

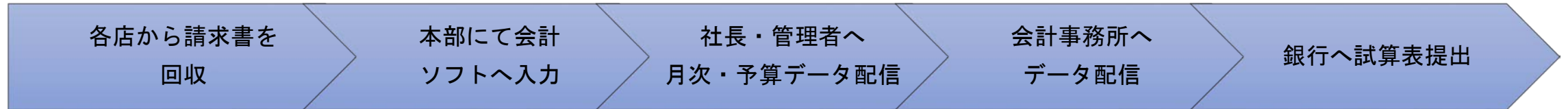
- ・ 社長が税理士事務所を変更してくれなかった（2年間かかった）
- ・ 紙からデータへの移行作業と請求書の整理に時間がかかった（1年分を入力し直し）
- ・ なかなかアナログから切り替えてもらえなかった

➤ 初期投資

- ・ 勘定奉行ソフト 約50万円程度（メインバンク経由で紹介）
- ・ 本部PC等 約10万円程度

① 会計システム導入による月次決算短縮化

■現在の月次処理（回収から試算表提出まで約1か月で完了）



➤工夫とコツ

- ・各店の銀行データを一元管理し、資金繰りがしやすい状態を作っておいた
- ・無駄な資金を各店口座に残しておかないように口座を整理（社長の手間が減る）
- ・本部口座ですべての経費管理ができるように変更した（資金繰りしやすい）
- ・月次データの数字が翌月には把握でき、予算管理で業績UP効果が期待できる（評価制度）
- ・メインバンクの融資担当者も巻き込み説得する

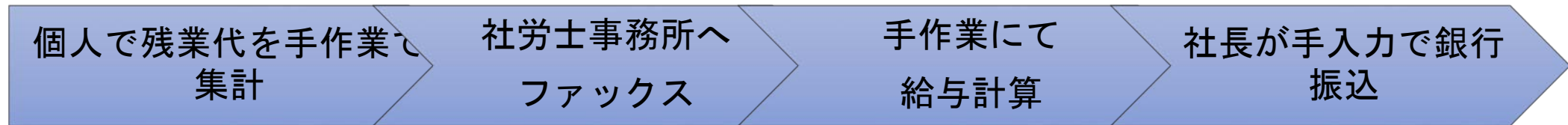
➤効果

- ・月次決算の短期化：月末×⇒翌25日頃には確定（月末の給与データも反映）**3か月短縮**
- ・予算管理による業績UP：前年比売上**1.2倍**（10月決算予測）
- ・実務の短縮化：会計ソフトがデータ取り込み可能のため、テレワークでも仕訳作業が可能に
導入当初は**4日/週⇒2日/週** 現在約**1.5日/週**
- ・会計事務所とデータ連携可能になり、会計事務所での入力作業はなし

② 労務管理・給与計算のクラウド化

➤ 課題

- ・従業員約20名が給与×日から2日程度かけて計算していた（1人**約2時間**として**40時間**）
- ・社長が1名ずつ手入力で振込（**1時間から2時間**程度）
- ・手作業によるミス多発（本人の計算ミス・社労士の計算ミス・社長の振込ミス）
→翌月の修正作業に追われる
- ・社労士側でファックスが読み取りにくく、何度も店への確認作業が発生（時間のムダ）
- ・社労士へファックスするとき、店舗で全員分コピーを取る手間が発生（紙のムダ）
- ・有給管理がされてなかったため、残数を個人が把握してない（残数確認する時間のムダ）
- ・有給取得も社労士にファックスで別紙を使って報告（紙と時間のムダ）



➤ 苦勞した点

- ・社長が給与計算方法をなかなか変更してくれなかった（2年かかった）
→メインバンクにも協力してもらった（資金繰りの面）
→**新しい社労士さんからもクラウド管理をご提案頂いた**
- ・新システム移行後、ITに慣れるまで時間がかかった（管理者のみ）

② 労務管理・給与計算のクラウド化

➤ 設備投資

- ・ ICタイムカード（9店舗分） 約100万円程度
- ・ ランニングコスト 毎月2万円程度

➤ 工夫とコツ

- ・ 社長の仕事や手間が減り、従業員からのクレーム対応時間が減ると提案
- ・ メインバンクの融資担当者も巻き込み説得する
- ・ デモンストレーションで使いやすさや、実際の時間短縮を体感してもらう
- ・ **常に既存の方法よりも業務効率できないか担当者が考え続ける**

➤ 効果

- ・ 社長・従業員合わせて**年間約500時間（時給換算100万円/年）**の削減
➡ その他（ファックスのためのコピー用紙代、コピー作業に係る人件費等）
- ・ 本社への給与に関する問い合わせ一切なし（**時給換算12万円/年**）
- ・ 給与計算が当月の決算に反映できる
- ・ 管理者が部下の勤務状況を毎月把握できるようになった（残業削減に繋がる）
- ・ 有給残数が給与明細で把握できるようになり有給取得率UP（**1.1倍**）

③ その他 I T を使った取組

➤ 社内イントラネットの活用（保守料 約3万円/年）

【課題】 社内イントラネットはあるがスケジュール管理しか使われてなかった。
社内への提出書類が一元管理がされてなかった。

【解決】 イントラ内の「ファイル管理」を使い、本部に問い合わせが多い内容や社内規定
提出書類を保存することで電話に取られる時間を削減（取組前3 H/日 ➡ 0 H）

➤ サイボウズLive（無料）を使ったプロジェクト管理

【課題】 社外でのイベントや新しいプロジェクトなどがすべて店舗メールでのやりとり
だったため、進捗管理しづらくメールが埋もれて探すのに時間がかかっていた。
メンバーの中にはメールを見てない方もおり、抜けやモレが発生し時間がかかっていた。

【解決】 無料のサイボウズLiveを使い、プロジェクトチームごとに管理できるようにした
一言進捗コメントをするだけでも、メンバーが何に困っているのか把握でき励ましあえる
環境を作ることによって全員でプロジェクトを進める意識をもたせる

④ 今後の課題

➤ レセプト、在庫管理システムについて

【課題】三重県と大阪府（1店舗は買収のため）では使用しているシステムが違っており、月次決算データの出力形式等が違うため、オペレーションが統一出来ない。三重の方が大阪で仕事をするためには、レセプトシステムを一から覚え直さないといけないため、ジョブローテーションが困難。調剤システムの入替は膨大な費用がかかるため、また入れ替えに伴う人的コストや残業代等も考えると、現状では実施できるレベルに至っていない。また、在庫管理システムもまだ整備されておらず、本決算時に正確な数字を把握するのにかなり時間を要するため、決算処理が遅れてしまう傾向にある。

➤ 人手不足の問題

【課題】ITに強い社員がおらず、トラブルが発生した際は社長がシステム会社とのやりとりで無駄に時間をとられている。また、自社にあったシステムのカスタマイズや、プログラムの修正等も業者に委託しているため、PCが壊れた場合など復旧に相当な時間がかかっておりかなりのロスになっている。地元業者もあまり詳しくないため、すぐに復旧することが出来ない。地方の中小はおそらく社内エンジニアがいるところは少ないと思われるので、IT化を推進するほどどこも課題になってくるのではないかと思う。